

議事要旨(1) 第2回会計基準アドバイザー・フォーラム (ASAF) の報告

冒頭、小賀坂副委員長より、第2回ASAF会議の内容について、説明資料[審議事項(1)]に基づき概要の説明がなされ、続いて関口常勤委員より、同資料に基づき各議題毎の詳細な説明がなされた。

説明に対する委員からの主な意見と、それらに対する事務局からのコメントは次のとおりである。

- ある委員より、次のような質問がなされた。
 - リースについて ASAF 会議で多様な意見が示されているが、IASB 又は FASB から今後の作業計画について示唆する発言がなされたか。
 - 金融商品の減損について、IASB では、提案した減損モデルを絶対的アプローチに近い方法で運用できるガイダンスの作成を検討していると聞いたが、これに関する発言はなされたか。
- これに対して事務局より、次のような回答がなされた。
 - リースについて IASB 及び FASB からは、これまで実施されたアウトリーチで聞かれた意見の概要が紹介されたが、600 通を超えるコメント・レターが寄せられており、再公開草案へのコメントを踏まえた再審議の開始時期は明らかにされていない。
 - 金融商品の減損については、ASAF 会議では実務的な論点が議論されたのみであるが、IASB スタッフからはご指摘の点について 10 月の IASB ボード会議で審議する予定と聞いている。
- ある委員より、次のような質問がなされた。
 - 議題が多数設定され、個々の議題について議論する時間が短く、また、保険契約やマクロヘッジのように、ASAF 会議で議論するには時期尚早と思われるものも含まれているが、十分な議論ができたと感じているか。
 - リースについて、欧州財務報告諮問グループ (EFRAG) からはどのような発言がなされたか。
- これに対して事務局より、次のような回答がなされた。
 - コメント・レター提出直後に、その議題について議論するのは効果的であり、ASAF メンバーからは、論点整理が公表される前の初期段階で方向性について議論することが重要との発言も聞かれた。
 - EFRAG からは、リースの会計基準について適切な母集団を対象とした上で、費用対効果の観点から複雑性を軽減するような方法を模索すべきであるという発言がな

された。

- ある委員より、豪州会計基準委員会による開示に関する小論文について、次のような質問がなされた。
 - ASAF 会議における発言として、一般目的の財務報告の目的が狭義に理解されているのではないかと示されているようだが、どのような趣旨で発言がなされたのか。
 - IASB 関係者の発言として、ストックとフローの関係では、フローにより重きをおくべきではないかと示されているようだが、どういった趣旨の発言か。
- これに対して事務局より、次のような回答がなされた。
 - 一般目的の財務報告の目的で強調されている「将来の正味キャッシュ・フローの金額、時期及び不確実性に関する企業の見通し」を評価するための情報提供の範囲が狭義に理解されているために、小論文で示されている「⑤事業上の適応性」及び「⑥財務上の適応性」は一般目的の財務報告の目的に含まれないという見解が示されているが、これを広義に理解することで、より有用な情報の提供に繋がるのではないかと趣旨の発言が、ASAF メンバーよりなされた。
 - 小論文では、フローよりもストックについての記述に重点が置かれており、フローはストックの変動の差額であるという説明がなされているが、財務情報の利用者にとってはストックよりもフローの方が重要である、という趣旨の発言が IASB スタッフよりなされた。

以 上